



平(たいら)※方言名：テラ・テリヤ

海岸近くに集落が多い中で笠利町の内陸部に位置する平集落。集落ではズンゴーといった奄美ブランドの果樹も栽培しています。集落の自慢は非常においしい湧水で、ソーズイン川(ゴ)といい、集落内はもちろんのこと近隣集落にも分けている水です。



貯水槽

平集落は標高約30mの台地に形成されている。その集落で一際目立つのが、高さ約10mのコンクリート製の四脚の上に円柱タンクが乗った貯水槽である。テリヤ(平)と言えばテリヤムジ(平の水)と言われたほど水が豊富で、昭和35(1960)年頃から谷底で湧き出るソーズインゴの水を汲みあげていた。



平墓地

平墓地は集落の東寄りの台地に位置し、江戸末から明治期における墓石が目立つ墓地である。墓石の石質は、山川石・加治木石・サンゴ石・節田石で、薩摩統治時代に鹿児島から持ち込まれてきたものであることがわかる。シマ各地の墓地同様に墓石がステータスだった可能性が高い。



ターバチ山(天孫降臨の地)

集落の伝承では、ターバチ山(大刈山)の山頂(アマンデー)に女神「阿麻呼姑」が降臨し、浮島であった奄美大島に7つの立神を打ち込んで止め、7人の自然神を降ろして大島を繁栄させたとされている。ターバチ山中腹には明治34年に、アマンデーまでの登り道が険しいことから、訪れる方々が拝めるように「阿摩美姑天神最初天降地」の石碑が建てられ、アマンデーにある神石に向かって拝むようになった。初日の出に家内安全や武運長久などの祈願を行う信仰の山でもある。



水神様

谷間にあるソーズインゴは飲料水としてだけでなく聖域的な空間でもあり、水神様も祀られ、アモレウナグ(天女)の出没する場所として畏れられてもいる。そこには足跡のような窪みがある「アモレウナグの石」という石もあったが、整地された時に失われたのか、今は不明になっている。



平カトリック教会

明治31(1898)年～大正12(1923)年に、長崎出身の中村長八氏により平集落でキリスト教の宣教活動が行われた。昭和29(1954)年12月に教会が完成し、冠婚葬祭にも利用されている。手花部の教会と同様に小さな可愛い教会である。



地下げ屋敷

奄美は台風銀座と言われ、毎年台風に見舞われる地域のため、屋敷林は風に強い樹木が植えられている。特に風の強いところでは屋敷を地下げし、窪地に家を建てている。平集落はそのもっとも典型的な例である。地下げた屋敷の周囲は土塁状に囲い、土塁を維持する竹で垣根が作られている。



ソーズインゴ

谷間にある湧水源には平・手花部集落の人たちが水汲みに来っていた。テリヤに行くときは水を汲んで帰ると言われていたほど名水として崇められていた。また赤ちゃん誕生に伴うコーオレシ(新生児を水で清め健康を願う。当日は赤飯で祝う)を行う場所でもあり、地域の人々には欠かせないイジュンゴでもある。環境省の奄美の名水の一つになっている。



神屋敷の跡

ソーズインゴの上にある貯水槽の麓には神屋敷の跡地がある。集落の中を通る神道はターバチ山から降りる道と南側から来る道があり、神屋敷に通じている。天孫降臨、神道、神屋敷、阿摩美姑神社など海に面さない土地に琉球の風習が合流する聖域的な香りのする集落である。